



オオバナミズキンバイとは

南米原産の外来植物
2014年に環境省が“**特定外来生物**”に指定

生態系や人、
農林水産業に
被害を及ぼすもの

<特徴> **赤い茎** 互い違いに生えた葉 **黄色い花**



<被害>

水質悪化

水面に繁茂することにより、日光が遮られ、流れが悪くなり、水が汚濁



生態系への被害

産卵場所に繁殖し、魚の産卵を妨げる
在来植物の成長を妨げる

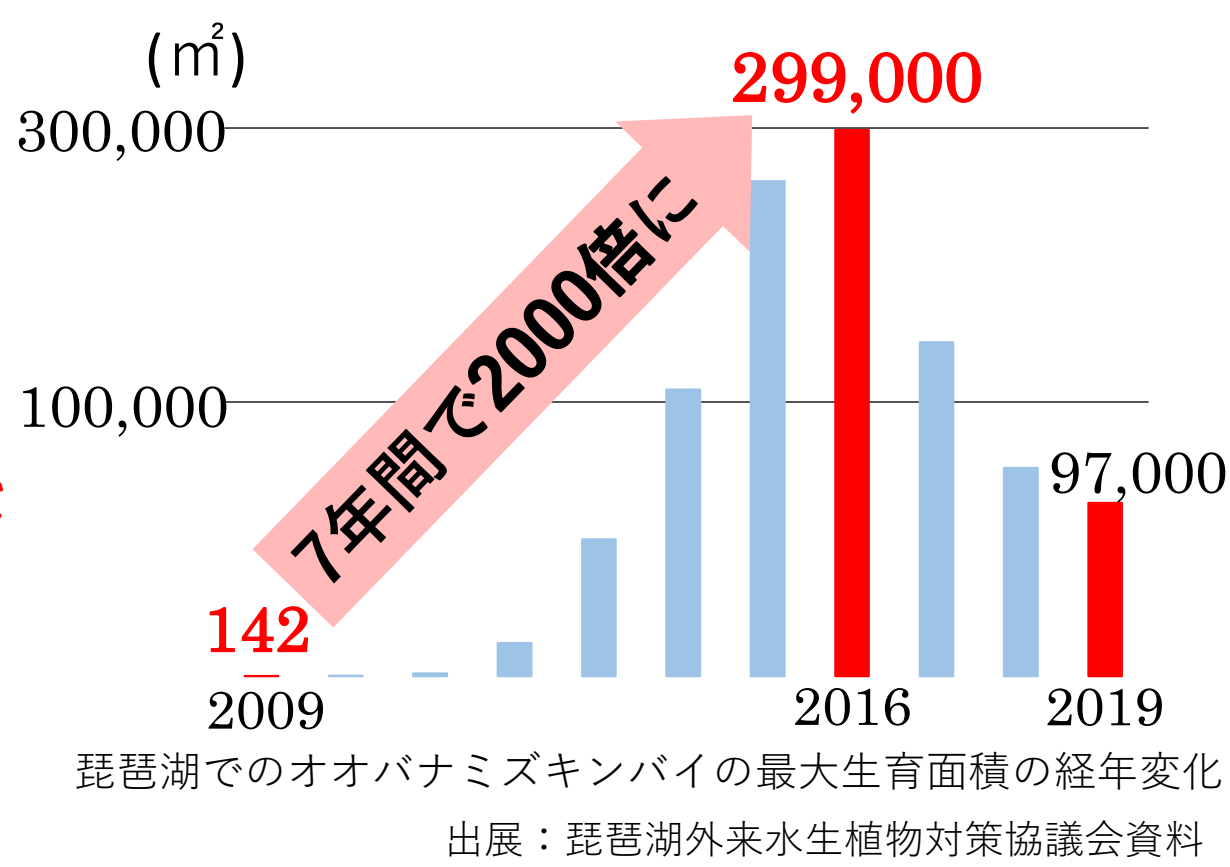


漁業への被害

船の往来の妨げ・魚の減少

<脅威>

- ・ **水陸両生**
水面を覆うように繁殖
農地にも繁殖
- ・ **繁殖力 再生力の強さ**
茎の破片からも再生
1日3cm伸びる



活動紹介

私達IVUSAは、**学生**の“**マンパワー**”を活かして、オオバナミズキンバイの除去活動を**行政・企業・地域・漁師**の方々と連携して行っています



- ・ 2013年から計**83**回の除去活動を実施
- ・ 延べ**13,700**人（行政・地域NPO・漁師含む）が参加
- ・ 大学の**学園祭**での展示、**環境イベント**での活動紹介



！現状課題！

オオバナの繁殖域の**拡大**です！
琵琶湖全域から、**京都の鴨川**や
大阪の淀川などにも繁殖が
広がっています！！

関西全域の方に知って
いただき、早期発見
早期除去することが
大事です。

高島市オオバナミズキンバイ除去活動

- ・ 2022年11月19日、20日の2日間 **1,2年生中心に計56名**（IVUSA48名、滋賀県庁4名、高島市役所4名）で実施
- ・ 新しい除去方法（**淀川方式**）の活用
淀川方式により、2,000m²のオオバナ群落に取り組んだ

<淀川方式とは>

オオバナ群落を縁から裏返して巻き、水中に沈め泥で覆い
光合成を妨げることでオオバナを枯死させる手法

淀川方式によって同じ面積をより少ない人数と時間で
完結でき、**金銭的な負担も減少**



全員で声をかけあいながら完全除去を目指しました！

<淀川方式（高島市）と従来の除去方法（草津市）の比較>

高島市
除去量 約2,000m² 2日間・述べ101人 現場で完結

草津市
除去量 約2,000m² 3日間・述べ421人 30トンの運搬
仮置き・処分あり



淀川方式、従来の除去方式ともに除去後の定期的な巡回監視が重要

～Question～

オオバナミズキンバイを除去することによって琵琶湖の環境はどうなるでしょう？

- ①水質が改善される
- ②光合成が起こりにくくなる
- ③魚の数が減る
- ④生態系への被害が阻止される



[Answer] ①, ④

①密生していたオオバナを除去したことで、**水の循環が解消**されたり、日光が水中に入って植物が光合成できるようになり、**酸素不足が解消**され、また川から水が循環し、**水質が改善される**

②④水面を覆っていたオオバナがなくなると、日光が水中の植物に届かず、**植物の光合成**や**魚が呼吸できない状態が解消される**

③魚の産卵場所に侵食していたオオバナを除去することで、魚が繁殖でき、**生態系が回復する**